

# 多高通信

第164号 平成31年3月28日発行



宮城県多賀城高等学校

## 祝 41回生卒業おめでとう!!

3月1日、第41回卒業証書授与式が行われ、多賀城市長・菊地健次郎様ほか、たくさんのお来賓の方々の御列席を賜り、多くの保護者に見守られながら、41回生普通科231名、災害科学科33名の計264名が巣立ちました。

### ■送辞 宇佐美直輝

(2年7組 東仙台中出身)  
入学して間もないころの私たちは不安や緊張で胸がいつぱいでした。しかし、学校行事や部活動の中で優しく丁寧ないろいろな教員にサポートされたりしていただきました。特に、多高三大行事では、先輩方を中心に試行錯誤しながら先輩後輩一丸となつて行事を作り上げてきました。



残された私たちは、何事もあきらめず主体的に考え積極的に動き、この多賀城高校をさらに良い学校にしていきたいです。ぜひ見守ってください。

### ■答辞 卒業生代表 小畑 友哉

在校生の皆さん、これからも多賀城高校生として様々な場面で活躍し続けてください。多賀城高校には自らを成長させるきっかけやチャンスがたくさんあります。そうした機会を生かしてより良い学校を作り上げていってほしいと思います。



佐々木校長の式辞

私たちがこの多賀城高校で過ごした日々は最高の三年間でした。41回生のこのメンバーだからこそ作り上げることできた素晴らしい高校生活でした。今日を境に、私たちはそれぞれが自分信じて進む道を進んでいかなければなりません、それでも私たち

は多賀城高校で学んだことの一つ一つを糧に、力強く生きていきます。

## みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会

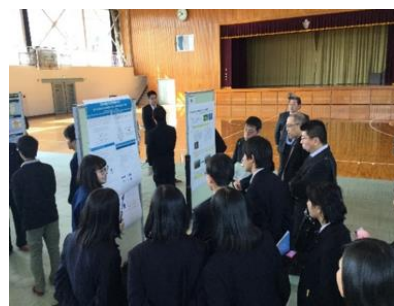
## 東日本大震災メモリアルDay 2018



3月2日・3日、みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会、東日本大震災メモリアルDayが開催されました。これは将来の宮城を支え、自主防災組織等における次世代のリーダーなど将来の地域の防災活動の担い手を育成するため、防災に関する知識・技術を習得し、防災や減災への取組に

自発的に協力、活動する高校生を「みやぎ防災ジュニアリーダー」として養成するものです。また、全国の高校生を中心とした若者が課題研究などの成果を発表し、ワークショップやポスターセッションなどを通して意見交換することで、東日本大震災の経験と教訓を後世に継承し、国内外の減災に貢献することを目的としています。県内高校生20校11名に加え、全国から13校31名、そして多賀城市内の中学校4校から19名、総勢161名が参加しました。

初日は、まず被災地スタディツアーとして震災遺構 仙台市立荒浜小学校と震災後地域に根付いた復興に取り組む企業、マリニビル「仙台工場」に行きました。続いて、多賀城市内のホテルでは、開講式に引き続き、東北大学災害科学国際研究所今村文彦先生の基調講演「東日本大震災の教訓と最近の災害の特徴」を聴講。そしてワークショップでは「多賀城高校オリジナルDIG」を



2日目・ポスターセッションの様子



今村先生の講演

行い、その後夕食・交流会で交流を深めました。

2日目は多賀城高校に会場を移して、ポスターセッションを行いました。全体会では県外参加校が学校紹介を行い、ポスターセッションでは、防災・減災等に関するもの、科学的な研究の成果発表をテーマに各校の発表がありました。県内5大学6名の講師に加え、県外高校3校の先生方から指導・助言をいただきました。これからの課題研究に大きな刺激を受け、今後の学習への取り組みに一層熱が入ることでしょう。

■加川 心愛(1年7組 向洋中出身)  
私は今回メモリアルDayに参加し、改めて東日本大震災を振り返りました。荒浜小学校を訪問した際には黒板など当時の状態のままのものがあつたので震災の被害の大きさを痛感しました。オリエンテーションでは県内だけではなく県外の生徒とも交流し、意見交換をするなど良い経験ができました。まち歩きでは、他校の生徒に多賀城市内を案内しました。多賀城市の被害の規模を伝えることで改めて震災の被害について学ぶことができました。

今回身につけた知識はこれからの災害科学科での活動に役立てていき、震災を知らない世代にも伝承していきたいです。

## 理数科課題研究発表会



3月15日、平成30年度宮城県高等学校理数科課題研究発表会が仙台市若林区文化センターで行われ、災害科学科1・2年生が参加してきました。仙台第三高校、仙台向山高校、宮城第一高校に本校を加えた4校で取り組んできた課題研究の成果を発表するもので、本校は地

学分野における2つの発表を行いました。いずれも、災害分野において自ら発見した課題を調査・実験し、データをまとめ、被害想定やスケールを考慮した値の校正など、オリジナルテーマのある研究発表でした。今後も検証を重ねることで、より実効的な災害をテーマとした研究として、皆に深く印象付けられるものを目指し研究を進めます。また、発表後の質疑応答では、質問者が研究の趣旨に鋭く切

り込み、研究の展望に対して意見するなど、発表した生徒をより一層刺激するものでした。

### ■松浦 翼(1年7組 東豊中出身)

今回私たち1年生は発表を聴くだけだったので、どのグループもそれぞれの課題をグループ毎の視点から考察しており、探究心が凄く、発表の内容の濃さに驚愕しました。また、発表後には質疑の時間がありませんでした。たくさんの方が積極的に手を上げて質問し、中には発表に対して提案をする人もいて、生徒同士でより良い発表を作ろうという意識を感じることができました。

今回の発表会で得たものはたくさんありました。この得たものを来年の理数科課題研究発表会や、他の発表会などに活かしたいと思います。

## くらしと安全 特別授業

## 復興コミュニティデザインに おける住まい・まちづくり

3月18日、東北工業大学工学部の新井信幸准教授を講師にお招きし、1学年を対象に特別授業を行いました。学校設定科目「暮らしと安全A」の一環として、復興住宅の現状や生活の様子を知ること、住環境について再考し、生徒の災害や復興についての興味・関心を引き出し、防災・減災の在り方について学習するものです。



アイデアソン演習

授業の前半では「復興コミュニティデザインの実践」と題した講義、後半は「暮らしを支えるコミュニティ」をつくる「アイデアソン」(※アイデアソン: アイデアとマラソンを組み合わせた造語。新しいアイデアを生み出すためのイベントという意味)と題した演習を行いました。

### ■生徒の感想

自分達にできることを考えながら、異なる世代の人達が交流することで新鮮な気持ちになり、元気が出るのではないかと考えました。住み心地が良い空間を「滝」や「風」などのイメージにまとめている班があり、おもしろいなと思いました。